

2021 年度第 3 回 N P O 法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日 時：2021 年 7 月 13 日（火） 午後 8 時 00 分から
- 2 方 法：Zoom アプリを媒介にしての遠隔会議
- 3 議決権のある理事：9 名
出席者：座間直壯、清田義昭、齊藤誠一、田中ヒロ、中川恭一、保坂一房、堀 渡、堀越洋一郎
欠席者：手嶋孝典
事務局員の参加者：雨谷逸枝

(1) 第 1 号議案 会員の動向について【報告】

- ・2021 年 7 月 1 日現在
正会員 82 名 2 団体 賛助会員 35 名 1 団体、計 117 名 3 団体（合計 120）
- ・総会を終え、会費が 2 年間未納の賛助会員 3 名について退会処理をしたので減員となった。
なお昨の同時期は、正会員 83 名 2 団体 賛助会員 39 名 1 団体、計 122 名 3 団体（合計 125）
だった。

(2) 第 2 号議案 2021 年度通常総会及び ZOOM による会員の意見交換会について【報告】

- ・2021 年度通常総会は、会員には書面による意思表示、参加をお願いし、5 月 30 日午後 2 時より多摩デポ事務所において開催した。出席 60 名（本人出席 5 名、書面表決出席 55 名）
- ・役員改選も含めて、全議案は承認された。
 - ・今回は総会席上で議案書の丁寧な説明ができないので、議案書の補足資料として、会計書類の説明資料と新理事候補者の紹介文を送付した。
 - ・書面表決票に記入された意見では、ねぎらいのことばの他には、特に多摩デポの活動についてのもはなかった。6 月 7 日に、会員向けの総会報告を発送した。
- ・6 月 13 日の午後 2 時より、予告していた Zoom による会員意見交換会を初めて開催した。
- ・のべ 17 名の参加があり、下関市や新潟市、東京の区部など遠方からの参加もあり、個々人の近況報告や意見交換も行え、新しい企画を行った意義はあったのではないかと。予定時間を延長して 4 時 30 分まで続けた。
 - ・今回は齊藤から、(株)カーリルと続けている研究活動の現状を報告することができた。
 - ・そしてその場を、たましん歴史資料室の所蔵資料に機械的に付番してみた ISBN の検証作業のボランティアを募集する機会とした。
 - ・コロナ禍の制約もあり、動きがにぶくなっている多摩デポだが、(年会費を入金されるなど)会員の支えは続いている。しかし多摩地域に住む会員が気さくに意見交換会に顔を出して、近況を述べたり意見を言いあう側面は少なかったのではないかと。
 - ・リアルな集会を企画したり、人に会ったり、図書館訪問したりすることが困難になっている。今後も ZOOM による意見交換会を試み、前向きに参加する方を増やし、新たな活動を生み出していけるよう、工夫を重ねる必要があるのではないかと。

(3) 第3号議案 総会後の諸手続きの現状について【報告】

- ・ 以下のように、総会後の法人としての諸手続きは遅滞なく行えた。
 - ・ 法人税申告・納付 (5/31 期限)
 - ⇒ 5/20 武蔵府中税務署申告 5/20 調布市 5/21 立川都税事務所 終了
 - ・ 登記所へ役員変更登記申請(2週間→6/12期限) ⇒ 6/3 申請手続き済
 - ・ 東京都へ役員変更届提出(7月末期限) ⇒ 6/10 提出済
 - ・ 東京都へ事業報告等提出(7月末期限) ⇒ 6/10 提出済
 - ・ 貸借対照表のHPでの公告(遅滞なく=2週間→6/12期限) ⇒ 5/30 済
- ・ 会員に向けては、書面による総会報告を6月7日に発送した。

(4) 第4号議案 津野海太郎氏の顧問の委嘱について【報告・討議】

- ・ 定款によれば顧問は理事会の議決を経て、理事長が委嘱することになっており、理事長の任期終了で顧問任期も終了となるので、顧問をどうするかを検討する必要がある。
- ・ 前期は津野海太郎氏と平山恵三氏に委嘱してきたが、「多摩デポ」創設時の副理事長の平山氏は昨年10月に逝去された。
- ・ 津野氏にはぜひ再度の顧問をお願いしたいとの新理事の意向を受け、理事長が打診したところ受けていただけるとのご返事をいただいた。
- ・ 理事長の報告を受け、討議を行い、津野海太郎氏の顧問の委嘱を全会一致で了承。
- ・ 津野氏からは「役に立てることがあったらいつでも」と言っていたので、Zoom等による集会の機会があれば、お話していただくとよいのではないかと。

(5) 第5号議案 多摩地域の公共図書館の運営をめぐる動きについて【報告】

- ・ 昨日、7月12日から東京都は4回目の緊急事態宣言となったが、公立図書館の開館やサービス面については、未確認の部分もあるが、今のところ特に変化はないように見える。
- ・ 今回は、東京都の区部の図書館も開館を継続しているようだ。
- ・ 図書館では、夜間の開館時間の短縮、集会行事の中止、座席の間引き、来館者への短時間の館内利用の促しなどが続いているが、昨秋以来、貸出冊数などは前年の水準までかなり回復してきている。図書館の呼びかけで、ネットで予約をかけてから利用する流れが広まっている。
- ・ ただコロナ禍が長期化すると、運営体制の継続が(ボランティアの育成や依頼など)途切れがちになってしまう部分はある、課題が出てくるだろう。
- ・ コロナ禍や休館しても提供できるサービスとして、電子書籍の提供に着手する自治体が増えつつある。事業の拡大には長期的な見通しが必要だ。これによって図書館事業費の配分、図書費の確保や、紙資料の収集、保存などにどんな影響があるかは注意が必要だ。
- ・ 多摩地域の市町村立図書館長協議会は、7月8日(木)に年度初めの定例会を開催した。この中で、時限的な扱いだった除籍資料担当者会は、図書館サービス研究会(令和2-3年度、日野市が会長市)に所属するとの確認がされたようです。
- ・ リアルの担当者会は、昨年度も未開催であることから、今年度の状況は現在未定の模様。

(6) 第6号議案 TAMALAS 一括処理システムの活用状況について【報告・討議】

- ・約70万冊収蔵という府中市の自動出納書庫内の蔵書の点検のために、TAMALAS 一括処理システムが使用された。得られた結果をもとに、書庫の現物の整理はまだ作業途中だが、TAMALAS はうまく使えたと聞いている。
- ・たいへん大量冊数の点検ということ、自動出納書庫の点検に使われたということ、そして自館で必要とする段取りの中に丁寧に組み込んで活用されているという意味で、TAMALAS にとっても重要な事例になると思われる。
- ・7月9日に、(株)カーリルと多摩デポの研究会の第53回定例会をZoomで行ったが、そこで府中市職員の方にレポートをしていただいた。大変分かりやすいレポートだった。TAMALAS 一括処理システムを各図書館が使うための参考になる部分が多いと思われた。
- ・多摩デポは、今回の府中市の書庫の点検が成功されるよう今後も協力したい。またこの事例が図書館界で共有できるよう、図っていく必要がある。

(7) 第7号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・討議】

- ・たましん歴史資料室の所蔵資料のうち、約25,000点の所蔵目録にはこれまでISBNが記入されてこなかったが、(株)カーリルの手で、その目録情報を他館等の書誌情報にぶつけ、推論的にISBNを付与してみた目録データがある。
- ・このデータの正誤や揺れ具合の検証作業を、一点一点、事務局及び会員のボランティアで行っている。7月15日を締め切りにして集約中。
- ・「歴史資料室」の資料は、パンフレットや絵葉書など市販図書以外のものも多く、ISBNが付与できる蔵書の割合は多くないが、可能な資料だけはISBNを付与できれば、TAMALASに組み込んで検索することができるようになる。
- ・確実に付与するためには検証が必要だろうが、この推論的な付与の方法の有効性についても、見通しを持ちたい。
- ・また以前からの重要課題だが、多摩デポはTAMALASの開発以降、ISBNのない図書館資料の同定識別の方法を研究している。まずは各自治体の図書館が所蔵する地域資料の、書誌割れによる同定識別の困難さを容易にしたい。そのために一昨年には調布市立図書館の多摩川関係の地域資料の書影撮影をさせていただいた。たましん歴史資料室が、多摩地域の郷土資料を網羅的に収集作成した書誌データをそのために活用できないか、研究して結果を出したいと考えている。

(8) 第8号議案 今年度の多摩デポ講座等の企画の見直しについて【報告・討議】

- ・新型コロナ感染症の問題が長期化しリアルな集会や図書館への訪問が困難な中で、Zoomを使うなど、出歩いて人が会わないで行える活動を考え、始めていく必要がある。
- ・現役の職員に身近に思え、実務に生かすことのできる多摩デポ実践講座。レファレンス関係の研修講座。図書館の蔵書データや書誌の同定を検討する研究会。
- ・全国公立図書館長協議会(全公図)の2018年度と2019年度に渡った調査と『公立図書館における蔵書構成・管理に関する報告書』が発表されたので、再度、これで明らかになった県域ごとの共同保存の実態と課題を議題にする講座。
- ・以前に何度か行っているが、現役の図書館長の想いや考えを聞く講座。などが話題になったが絞り切れなかった。現役職員の参加が見込めることは欠かせないとの意見

もあった。これらを元に事務局会議で具体的に検討し、理事会にはメーリングリストで提案する。

(9) 第9号議案 『多摩デポ通信』第58号について【報告・討議】

- ・年度総会の呼びかけを載せて5月6日に発行した第57号に続き、次号の発行を予定している。
- ・府中市の図書館が大量の閉架蔵書の点検のために、TAMALAS 一括処理システムをうまく活用してもらっていることは成果でもあり、他の自治体への啓発のためにも、工夫して丁寧に掲載したい。
- ・たましん歴史資料室の蔵書目録データへの ISBN の推論的付与、及びその検証作業についても掲載したい。
- ・新たに理事に就任された二人の所信表明の文章を掲載する。
- ・津野海太郎氏の顧問就任のことを掲載する。同氏からのコメントを掲載できるとよい。
- ・「ZOOMによる会員の意見交換会」のことも掲載する。
- ・次の講座の企画が絞れないでいるが、企画の具体化を待ち、それを広報する号として発行する。
- ・創刊以来、季刊で発行してきているので、夏の号として8月末までには出せるようにしたい。

(10) 情報交換

【共同保存図書館関連論文】

- ・『国立国会図書館が所蔵せず公立図書館が所蔵・除籍している図書』辻慶太，遠藤諭，水沼友宏 『日本図書館情報学会誌』2021年6月号 (vol. 67, No. 2) p69-p86
(この間、(株)カーリルと多摩デポが明らかにしてきた事実や事業を元にしながら、まとめられた研究論文)

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 第54回定例会 8月27日(金)午後8時～、Zoomを使って
- ★ 事務局会議(2021年度第3回) 日程未定、Zoomを使って
- ★ 次回の理事会 第4回理事会 9月21日(火)午後8時～、Zoomを使って

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、中川恭一理事、保坂一房理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2021年7月13日

議長

議事録署名人